

# いずみ通信

～養泉寺寺報 Vol.6～



ゆったりと、キャンドルヨガのひとつき(2020年12月19日)

## 特集 ～今できることは何だろう?～

皆さま、いかがお過ごしでしょうか? 新型コロナウイルスが生活の中心になり、新しい生活習慣が叫ばれてもう1年以上になりました。そしてその終息はまだ見えません。

昨年の新語・流行語大賞は「三密」でした。またその年の世相を表す漢字も「密」と決まり、清水寺貫主により、力強く揮毫されたことは記憶に新しいところです。この「密」を避けることが大切なこととして叫ばれ続けているのがこの御時世です。

真宗門徒は長年、この「密」を大切に歩んできました。共に集って聞法し、お互いの思いを吐露し合い、そして念仏生活を深めていった歴史があります。また仏事におけるお齋は、

故人との、また自分でも知らなかった自分との出遇い直しの場としても、重要な役割を果たしています。それらを避けなければならないということは、布教という仕事を担う立場としてはとても厳しい現実です。

本願寺8代目の蓮如上人は、「仏法には、明日と申す事、あるまじく候。仏法の事は、いそげ、いそげ」(『蓮如上人御一代記聞書』)と仰いました。仏さまの教えを聞くということは「不要不急」ではなく、日々に油断なく続けていかなければとんでもないこととなりますよ、と背中を押してくれる言葉です。

もちろんできる限りの感染予防対策は大切だと思います。しかし、努力しても、いくら対策を尽くしたとしても、なお避けられない時

があると思います。ですから、老いも死も、今回のコロナウイルスも、自分の身にいただいたならそういうご縁だったと引き受けていくしかありません。そういう心の境地をいただきながら生きていきたいものです。

仮に外出をせずとも、お寺にお参りできなくても、ご自宅のお内仏の前で、お念仏一声申すということはできます。いつの間にかそんな時間までなくなってしまっただけではないでしょうか？ 皆さんに、また自分自身に問いかけたいと思います。

さてお寺では、日々のお勤めを基本としながら、今だからこそできることはないかと模索しています。大広間を利用して行っている少人数でのヨガのひとつもその一つ。月2回という無理のない開催をベースにしながら、不定期で行われるキャンドルヨガも好評です。小さな灯揺らぐ幻想的な空間も手伝って、日常のストレスから開放される時間です。当日参加された方は皆それぞれに嬉しそうな表情を浮かべ、帰路についておられました。

今年はどうな1年になるのでしょうか。それは誰にも分かりません。ただはっきりしていることは、今を生きる私たちは、老い、病になり、死んでいく、このいのちの真実の中にあるということです。

～今できることは何だろう？～この問いは、コロナ禍といわれる今だけの問いではありません。コロナ以前もコロナ以後も続く、人間を通底する課題です。今年も愚直に一筋に、その問いを心に留めながら、できないことを嘆くのではなく、できることを喜ぶ1年にしていきたいと思っています。

ヨガ教室開催中！！楽しくやっています☆

毎月第2・4月曜日  
13:15～、1時間程度

※詳しい問い合わせは大矢ひとみ先生まで！！

Tel 090-2980-6293

Web <http://sonomamanohito.blogspot.jp>

## みんなで探そう、今、できること！！

例えば・・・えんがわで習字



庭の見えるえんがわは、習字の宿題をやる場所にぴったり！「家ではなかなか準備と後片付けが大変！」「広い場所がなくて出来ない！」という方に喜んでいただいています。不定期開催です。あなたのお子さんの宿題もここで！

例えば・・・オンラインによる法要



仏事の縮小化は、そのまま寺の存続に関わります。コロナの中でも、どうすれば勤められるかを共に模索しましょう。オンラインによる様々な取り組みは既に多くのお寺で試みられています。これからは、状況に応じた利用も必要でしょう。

「今だからこそ、こんなじよをお寺でつてほしいー！」  
「オンラインで、こんなことは出来ないかな？」  
「お寺だったら今こんな役割を担ってほしいー！」  
「いろんなアイデア聞かせてほしいと嬉しいー！」



# KOTONOHA



## 養泉寺の掲示板の言葉（9月から2月まで）

- 9月 「私はあの人になれないけど  
あの人も私になれない」
- 10月 「私たちの強さは弱さから生まれる」
- 11月 「言葉ひとつが居場所をつくる」
- 12月 「この現実世界 そのものが阿弥陀様」
- 1月 「誰もがはじめから渡されたプレゼント」
- 2月 「がっかりしてからが本当の出遇い」

人生はがっかりすることの連続です。希望を抱いては失望し、期待しては裏切られ、思い通りにならないとって投げ出したくなるものがたくさんあります。

人々はいつしか、希望通り、期待通り、思い通りの人生を望み、どうやったらそれを実現できるのかを求めるようになりました。希望通り、期待通り、思い通りの人生こそいい人生だと疑わなくなったのです。でもそれこそが人間最大の迷いです。

ある先生は法話の中で、「人生は何度も何度もがっかりします。それは生きている限り避けられないことです。しかし、がっかりしないことが大切なのではありません。がっかりしてからが本当の出遇いなのです。何度も何度もがっかりして、何度も何度も出遇い直して、はじめて人間は人間になっていくのです。」と教えて下さいました。

何かと辛く、不自由な日々が続いています。それを歎けばそれまでですが、新たな出遇いとだけ、また違った景色が見えてくるような気がします。改めて考えてみたい、そんな今日この頃です。

## ちょこっと、ひとこと！！

みなさんお久しぶりです。若坊守の智子です。養泉寺では、法語印係として、御朱印帳を持ってお参りに来て下さった方へ、「今月の法語印」をお書きしています。

来て下さった方に喜んでもらいたいので、伝筆（つてふで）という技法を学んだところ、はまってしまい、ついには講師資格まで取ってしまいました。

庫裏の落成記念品と一緒に、住職のお礼の言葉のハガキの裏に、「南無阿弥陀仏」と書かせてもらいました。あれが伝筆文字です。

伝筆文字は、きれいで達筆な字ではなく、くせを味にして個性を生かした筆ペン文字です。コツはありますが、型はありません。間違いもありません。

気ままに筆ペンで正信偈を書く会でも始めたいと考えています。もし少しでもご興味のある方は連絡下さい！



こちらからいろいろやり取りもできますので、お気軽に連絡下さい！





# PHOTO GALLERY

10月27日、28日 報恩講

9月22日 秋彼岸会



今年は、新潟市の恩長寺御住職、渡邊智龍師をお迎えしました。とても分かりやすく、また説得力のあるお話でした（6～7ページ参照）。  
渡邊先生には、今年も報恩講の法話をお願いします。昨年お参り出来なかった方は、ぜひ今年はお参り下さい。



ここから新しいスタートじゃのお～！！



鷲恩くん

例年の秋彼岸会、永代経法要に併せて、ご案内の通り庫裏落成の報告をさせていただきました。

たくさんの方にお参りしていただきましたかったですが、御時世のこともあり、それも思うようにいかず、残念な気持ちもあります。

ご協力いただいた皆さんには記念品をお渡ししました（3月現在、皆さんにお渡し済み）。

ありがとうございました。

おみがきもお疲れ様でした！



あかほんくん



10月17日、11月14日  
養泉寺 おそうじ隊



お寺の境内や墓地の草刈りや枝払いは、皆さんの力なしにはとても手が回りません。ご協力いただいた皆さんには改めて感謝申し上げます。

<今回の参加者>

能登さん（上荒町）、内藤さん（白岩）、中沢さん（湊町）、和田さん（法崎）、本間徹さん（境江）、本間裕栄さん（麓）、松井さん（太田）。

10月～11月  
寺泊観光協会 寺めぐり



大広間では約400年前の掛軸の特別展を行いました。好評でした！！

11月28日 おあさじ会



親鸞聖人の祥月御命日。子どもたちも皆早起きして勤めました。

1月28日 初お講

新年を、正信偈と法話できっちりと始める清々しさ。今年も、お寺で、お家で、施設のベッドの上で、それぞれの場所でご一緒に聞法していきましょう！！





# 法話 (2020年報恩講)

【講師】 渡邊 智龍 師  
【講話】 念仏生活



皆さんこんにちは。新潟市の恩長寺というお寺で住職をしている渡邊と申します。生まれは群馬県です。新潟へは婿としてやってきて、気が付いたら23年経ちました。

この度、養泉寺さまから報恩講のお話のご依頼をいただきました。その際、「講題を下さい」といわれまして、考えていたんですが、今「新しい生活様式」という言葉が大分定着しましたよね。「生活ってなんだろう?」と思った時に、「ああ、やっぱり私たちは念仏生活なのかな」と思いました、このような講題にいたしました。

親鸞聖人は私たちに『教行信証』という書物を書かれました。その中の「行巻(ぎょうのまき)」というところに、道綽禅師(どうしゃくぜんじ)の書いた『安楽集(あんらくしゅう)』という書物の引用があります。「豪貴富楽(ごうきふらく)自在なることありといえども、ことごとく生老病死を勉(まぬか)るることを得ず」とあります。簡単に説明しますと、「どんなに権力や勢力、富を得ても、生老病死の苦をまぬがれることは出来ません」という意味です。

現在私たちは何に苦しめられているのでしょうか。コロナウイルスですね。買い物に行っても最近、余計な物を買わなくなりました。目的の物をばっと見て、買ってすぐ帰って来るようになりました。旅行にもなかなか行きづらいですね。私の地域ではもう稲刈りが終わりましたので、本来ならこの時期は、早くお金使いたくてね。組合などで旅行に出かけるんですけども、今年はそれもなくなってしまったそうです。遊びのない生活をいつの間にか強いられている感じがしますね。また、そこにある大きな問題というのが経済ですね。特にこの寺泊の地域の方々は、観光が大きいでしょう。一番の打撃は観光業だといわれていますね。それに伴って、飲食業、生産業などですね。出かけるので、衣服や化粧品等も売れないんだそうです。本当にいろいろな業種に影響を与えていますね。

しかし、この苦しみは実際何なのか。本当に私たちが考えなければならぬことは何でしょうか。そういった時に、やはり私たちは真宗門徒です。この苦しみ、不安の中というのは、教えにたずねていくというのが一番の解決の道だろうと思います。そんな中で私たちは、「生老病死」の問題を今一度確認すべきだと思います。

「生老病死」とは四つの苦しみですね。ここをしっかりと確かめると、コロナウイルスに対する見方も変わってくるのではないのでしょうか。仏教では、「一切は苦である」といわれます。この世は迷いの世界である。この世の中が苦しいというところに立つのがまずスタートラインなんです。そして、ここが迷いの世の中だと分かるのは、迷いでない世界を知ることによって分かってくるんですよ。その迷いから解脱した人、目覚めた人、そういう方々を仏さまといいます。仏に導かれて、悟りの世界、浄土の世界に触れていくことによって、この世が迷いの世界であったと知るので。つまり、教えや仏教に出遇わないと、この世が迷いの世かどうかすら分からないんですよ。

四つの苦しみの中身は、簡単に言えば「思い通りにいかない」ということです。順番が違いますが、まずは「老」から確認します。私、何歳に見えますか。実は44なんです。白髪が多いのと態度がでかいので、50代とよく言われます。最近髪の毛もか細くなってきて、白髪にな

るわ、か細くなるわ…、あと最近はお眼です。そういうのが老いですね。皆さんも若い時があったんですよ。けれども自分が老いというものをいただく、若いて羨ましく思いますよね。でも皆さん子どもの頃って、早く大人になりたいって思わなかったですか。私は小さい頃、親がお酒を飲んだり、友達と話していたりすると、「子どもは早く寝なさい!」なんて言われてね。「いつしか俺も大人になって、酒飲んでたばこ吸って、あの世界に入ってやる!」って夢見ていたんですけど、自分がいざ親になってみると、こんなに守られていたのかということに気がきましたね。大人になるにつれて意外な苦しみも出てきますよね。今日お集りの皆さんで、薬を飲んでいない人はいますか。大体飲んでますよね。年取れば膝が痛いか腰が痛いか、思い通りにいかなくなるわけでしょう。だからテレビつけると、グルコサミンがいいとか、「初回無料」とかいわれて、注文するでしょう。そうやってサプリメントを飲んでみたり、化粧品を変えてみたりすると、多少は若返るかも知れませんが、肝心な中身は、60は60、70は70、80は80なんですよ。若くいたいと思っても思い通りにいかないことが老いの苦しみですね。

病。この苦しみも厄介ですね。どうして病になるんですかね。だって皆さん、一人として病気になる人はいないでしょう。私はようやく気がきました。生きてるからなんです。これは間違いないですよ。今でいえばコロナウイルスも病でしょう。長生きしているからこそ、病になる人がどんどん増えていくんですよ。今は90歳をびっくりしない時代になりました。そうやって長生きが増えたことで、いろんな問題が世の中を渦巻いていますね。その一つが老老介護です。お互いに老人になっていってしまう。また最近はお社会問題として、自分が80で息子が50で、未婚。親の介護のために仕事を辞めて、という人もいますね。そして、預金が底をついてしまったらどうなるんだろうという問題も出てきていますね。景気のいい時代には「年寄りを大事にしよう」と思っていたものが、近年は簡単にそう思えなくなってしまっているんです。うちの地域のお参りに来る方々も皆言いますよ。「あんまり長生きしたくない」って。今の時代と状況によって、病というものの苦しみ方も変わってきているんですよ。

死。一番分かりやすいですよ。今死にたくはないけれど、ほどほどで死にたいでしょう。死ぬことは出来ても、死なないことは出来ないんですよ。白骨の御文さまに「百年の形体をたもつべきや」とあるように、どれだけ頑張っても、100歳か110歳が限界ですよ。ですから自分の死というもの思い通りにならないという苦しみですね。白骨の御文さまでは「我やさき、人やさき」ともいわれます。自分が先か他人が先か分からないと書いてありますけれども、我々の受け止めは、「我はあと、人がさき」ですね。自分の死を棚に上げている人が多いですね。でもこれは当然です。私もお坊さんですが、やっぱり自分の死はどこかに置いています。でも実際は分からないですね。

うちの地域のあるおばあちゃんが何年前に、「私は90ぐらいまで生きて、2週間入院して、コロッと死にたい。」と言ったんですよ。私が「2週間って何だね?」と聞くと、「2週間あれば、旅に出たもんも孫たちも顔を見に来れる。でもそれ以上長く入院すると、若いもんに迷惑をかける。」って言うんですよ。迷惑をかけたくないという気持ちも分かるんですけども、ちょっと違うんじゃないかと思いついて聞いていました。

私たちは親や兄弟、祖父母、親戚、学校へ行けば先生、友達、いろんな人から育ててもらったんですよ。これは間違いないですね。そのお陰で自分が成長して大きくな

たんですね。けれど現代は、自分で大きくなった気になっている人も多いですね。今は昔よりも気付きづらくなっているんですよ。迷惑をかけたくないという関係性を切る時代になってきているわけですから当然ですね。

先日こんなこともありました。私が月参りに行ったらその家のお母さんが言うんですよ。「おめさん、うちから出た千葉のおばさん、分かる？ 亡くなったんて。ところが、亡くなって葬式終わってから連絡来たんだいね。全部終わってから。入院したことも知らせてくれない。亡くなったことも知らせてくれない。葬式が終わってから“全部終わりました”って連絡が来たんだて。」と怒っていました。今はご時世のこともあるけれども、何か寂しいですよ。本人の意向ならば話は別ですけど、やっぱり寂しいですよ。迷惑をかけたくない」というのは、世間体では良いように聞こえますけれども、蓋開けてみると悲しい言葉ですよ。人間は迷惑かけながら生きていくんですよ。わざと迷惑かけるのは駄目ですけども、自分たちが生活するというの、いろんなところにお世話になって、迷惑をかけて、“お互い様”の中で成り立っているんですよ。

では最後です。生。「しょう」と読みます。老いること、病になること、死ぬこと。ところがこの「生」というのは何の苦しみかという、これが一番難しい問題なんです。言葉で表すと「生まれる」とか「生きる」です。しかしここで使われている「生」というのは「今生(こんじょう)」です。「今を生きる」ということです。老病死の苦しみは皆さん今真っ只中でしょう。ですから十分味わっていると思うんですけども、この迷いの世に私が生まれて生きる、そのこと自体が苦の根本なわけでしょう。「老病死」を抱えて生きるわけですから、生まれるということはある意味、最大の苦しみです。この世の中が迷いの世の中でなければ素晴らしいんですけども、気付いたら、不安や迷いが渦巻いている世界だったわけですね。

今一通り「生老病死」をみてきました。私たちがここで明らかにしなければいけない問題は、この四つの苦しみをどのように受け止めなければならぬかということですよ。

これも私の地域のあるおばあさんの話です。もう亡くなっている方なんですが、お寺のお参りには必ず参加される方でした。その方がある時、「私の家は今、子どもたちも皆結婚して、孫が生まれて、その孫も皆高校や大学に行ってね、私は今幸せです。でもこんなに幸せなだけけれども、一つだけまだ大事な仕事を残してしまった。」と言うんです。「何の仕事がまだあるんだね？」と聞くと、「私にはまだ“死ぬ”という大仕事が残っている。」と言ったんですよ。どうですか皆さん。私は感動しましたよ。

皆さんなら引き受けられますか。私はね、引き受けるといことが大事だと思うんですよ。今生きているということを引き受けるといこと。そして老いも引き受ける、病も引き受ける、死さえも引き受ける。「老いたくない、病になりたくない、死にたくない。」という愚痴を、日々言って生きていくのか。「老いるまで生かしてもらいたいね、病になるまで生かしてもらいたいね、死んでもお浄土が待ってるいね。」と言って生きていくのか。どちらがいいですか。後者の方がいいでしょう。そうすると解決していくんですよ。でも簡単には解決はしません。引き受けるといことは、見方を変えると“任せる”ということでしょう。何に任せるんですか。阿弥陀様にお任せするんです。考えても分からない問題を、ああでもないこうでもないと沈んでいく人生を歩んでいくのか。阿弥陀様お任せしますいね、南無阿弥陀仏…、という人生か。心の持ち様が全然違うでしょう。私が今日述べたいのは、ここの部分なんですよ。

現在はコロナウイルスがありますので、最低限の用心・

予防はしますね。けれども、もしコロナウイルスに侵されても、癌になっても、それはご縁ですね。生まれたこともご縁でしょう。たまたまご両親が一緒になってくれて、私というのちを授けてくれたわけでしょう。70歳や80歳まで生かしてくれることもご縁でしょう。老いば病になる。これもご縁でしょう。そう考えればその先の死もご縁なわけでしょう。「お迎えに来る」ってよく聞きますね。違うんですよ。私たちが向かっていってるんですよ。そしてお浄土が待っていてくれるんです。だからお任せするんです。だから、南無阿弥陀仏…なんです。

赤い勤行集を持っている方は見て下さい。105頁から106頁にかけて、親鸞聖人の「現世利益和讃」というところですけども、「南無阿弥陀仏をとふれば」という和讃が六首あります。最後の一つだけ少し説明します。「南無阿弥陀仏をとふれば、十方無量の諸佛は、百重千重圍繞して、よろこびまもりたまふなり」。南無阿弥陀仏と“称える身”になる。ここが大事です。そうすると、全ての世界の数限りない諸仏が、百重にも千重にも取り囲んで、喜んでお守りして下さる、という意味です。諸仏とは「諸々の仏」です。例えば法名をいただいている方、おられるとしたら諸仏です。娑婆の名前と仏さまの名前と両方いただいて生活しておられる。また、先に亡くなった方々、必ず法名をいただいているんですよ。法名をいただくということは、「仏になっていく身」になるんですよ。そういう方々が「諸仏」です。皆さんの先輩方、ご先祖、そういった方々が「私が南無阿弥陀仏を称える身になった」ということに喜び、守ってくれている。「やっとおめさんも南無阿弥陀仏を称える身になったかね、ありがとう。」と喜んでくれているんですよ。

でも、私が念仏したからといってすぐ変わることは出来ません。少しずつ聞いていく、聞法するということが大事です。逆に一番駄目なのは、「今日いい話聞きたいね。」と言って、そのまま終わることです。実践が大事なんですよ。私たちは今を生きているわけだから、今から実践していきましょう。まず私が、南無阿弥陀仏を称える身にさせていただきます。その実践の繰り返しが年輪になっていくんですよ。この本堂にも、諸先輩方が南無阿弥陀仏を称えながら生きたことが染みついているわけですよ。そして皆さんの声も染みついていくわけですね。それが後世に伝わっていくわけでしょう。私は、「姿を見せていく」といことが大事だと思うんです。

考えてみれば皆さんも、誰から詳しく教わったわけではないけれども、気が付いたらお念仏しているんですよ。それこそが生活でしょう。皆さんは「念仏生活」をしているんですよ。それを実践していくということが何よりも大事なのです。

コロナウイルスは恐いですよ。でもお任せすることによって引き受けることが出来る。「年取ったな、ここまで生かさせてもらったな。」「病気になるな、あと残された時間大事に生きよう。」と引き受ければ、未来が明るいんですね。阿弥陀様が待っていてくれるんですからね。だから、念仏生活している皆さんはいい顔してますわね。

真宗門徒は報恩講で終わって、報恩講で始まるといわれています。それぐらいこの報恩講という行事を大切にしています。だから今日皆さんお参りして、今日の午後から来年の報恩講の準備が始まるんです。有り難いことですよ。

お時間となりましたのでこれで終わりとさせていただきます。長時間のご聴聞、本当にありがとうございました。

(2020年10月27日録音。文章：当院)

## あなたにインタビュー ～新津谷 悠、山口 誠～



毎年、1月2日に行う養泉寺の年始配り(御香を町内のご縁のある方々に配ること)を手伝っている新津谷悠さんと山口誠さん。終了後、少しだけお話を伺いました!!

—今年の年始配りはどうでしたか?—

新:例年にも増して疲れました。

山:あんまり苦じゃなかったなあ。

—今年は雪がすごかったから大変だったね。回っているといろんな家があると思うんだけど、何か気付いたことや感じたことはありますか?—

新:一番最初に参加した時は不安がいっぱいあったけど、今では大分家も覚えることができ、しかも、中学校のお便りなどで名前を覚えてくれた方がいて、話しかけてくれて、地域の人とこういところでも交流ができていいなっています。

山:さすが生徒会長(笑)

—誠君は何かある?—

山:正直な感想を言っていていいですか? あんまり若い人がいないなあ…って思います。いても出て来ないのかも知れないけど…。あまり興味がないのかなあとも思います。

—それもあるよねえ。じゃあさ、回っていて困ったことはありますか?—

山:去り際ですかね(笑)家から出る時にどう間を埋めようかと迷うことがあります。

新:ええ? でも普通に「失礼します」って言って出て来ればいいんじゃない!? (笑)

—なるほどね。でもさ、若い子がそうやって頑張ってるやってくれているのを見ると、皆嬉しいと思うし、暖かく見守ってると思うよ(笑) 学校では何か頑張っていることはある?—

新:今年は生徒会活動を頑張りました!

—生徒会長だもんね!!—

新:はい(笑)

山:僕は…友達と遊ぶのを頑張ってます(笑)

—(笑) いいことだね。今しかできないことあるからね。あとは…何年か回ってみて、「だんだんこうなったなあ」と思う変化はありますか?—

新:どこのお宅でもすごくちゃんと話してくれるって、うか、それに自分が回数を重ねるうちにだんだん一緒に話せるようになって、今年は「雪ひどいですね」とか「雪かき頑張ってください」とか、ちょっとした会話ができるようになってきました。

山:確かに慣れてきたのはあります。

—そっかあ、なるほどね。二人はこうやって「年始配りのお手伝い」という形でお寺に来てからあんまりお寺に来ることに抵抗がないと思うんだけど、どうしたらもっと若い人でも来やすいお寺になると思いますか?—

新:重要性や皆が知らなそうな大切なことを教えることをもっとやってほしいです。

山:子どもだけ集まるイベントみたいなのもいいと思います。結構人来てますよね?

新:子ども会はすごくいいと思いますよ!!

—参考にします!! 二人にはこれからも気軽に遊びに来てほしいし、是非お友だちも誘って来てくれると嬉しいです。最後に何か言いたいことはある? いろんな人に配るからさ(笑)—

新:できることなら…路線バスの本数を増やしてほしいです(笑)…もっとお金を回してほしい…。

山:特にないな(笑)

(2021年1月2日、インタビュー)



# お寺の裏側 —URATERA—

もっと知ってほしいお寺の情報や、知っているようで知らない仏事の豆知識などを紹介します！！  
今回は、養泉寺の鐘突き堂について、改めてご紹介いたします！！

## 鐘突き堂大解剖



明治36年に竣工。120年近く経っています。  
磯町の武部伊吉が中心となり建てた建物で、  
天井には立派な梁がめぐらされています。



昭和17年11月11日、国令により梵鐘を供出します。戦後、町の人たちからの強い要望で、檀信徒を中心に寄付を募り、昭和24年新春に再び梵鐘がつり下がりました。梵鐘の製作者は、黄地佐平。その世界では第一人者の有名な鋳物師です。



梵鐘は滋賀で作られ、荷物車で当時の大河津駅まで運ばれ、そこから大八車に乗って牛によって寺まで引かれました。多くの檀信徒も列を作って引っ張りました。



当時、中元組の杉田長蔵の思案により、大門からは階段に線路を這わせ、トロツコに乗せて境内地まで運び、お堂の真下からワイヤーで引き上げました。つり下げる金具の周りには、女性檀信徒の髪の毛が巻きつけてあったそうです。現在でも毎日夕方5時、また各行事の際や大晦日の除夜の鐘で突いています。





# 教えて！！ Q & A コーナー

この半年で、御門徒さんからいただいた疑問や質問にお答えします。こんなことを教えてほしい、これをぜひ採り上げてほしい、というリクエストもお待ちしています！！

**Q** 浄土真宗では「和尚さん」とあまり聞きませんがなぜですか？（堀部春子さんより）

**A** 各宗派や地方によって、お寺さんの呼び方はいろいろあります。その中でも、皆さんに親しまれている呼び方に、「和尚さん」があります。しかし、浄土真宗では和尚さんという言葉を使うことはありません。

「和尚さん」という言葉には、「戒律を授ける者」という意味が含まれます。戒律とは修行者が守るべき生活規範のことです。戒律を受けることを受戒と呼び、受戒することで仏弟子となり、そこで授けられる名前を戒名といいます。これが昔からの伝統的な仏教徒の決まり事でした。

しかし浄土真宗には、そもそも戒律がありません。それは、「何をしても一向に構わない」という投げやりな姿勢を推奨してはおりません。親鸞聖人が、「いずれの行もおよびがたき身」と自覚されたように、自力の修行によって煩惱を断ち切る事の出来ない自分への目覚めに開かれていく教えが浄土真宗なのです。

また、和尚さんには、「教えを与える先生」という意味もあります。浄土真宗では、僧侶は偉い先生ではありません。御門徒の皆さんと一緒にあって聞法する仲間です。もっと言えば僧侶も門徒の一人なのです。共に一念仏申す仲間のことを「御同朋（おんどうぼう）」といいます。浄土真宗では上下の関係ではなく、共に同じ方向を向く関係なのです。

では浄土真宗ではお坊さんのことをどう呼ぶのでしょうか。地域などによっても違いがありますが、一般的には住職、副住職で結構です。またそのお寺（寺院）の主（あるじ）という意味で、住職のことを「御院主（ごいんじゅ）」と呼んだり、次の御院主に当たるべき人という意味で、副住職のことを「御当院（ごとういん）」と呼んだりします。さらに、住職の連れ合いは坊守（ぼうもり）、副住職の連れ合いは若坊守と呼びます。住職や副住職が女性、坊守や若坊守が男性という場合も当然ありますし、現代では全く珍しくありません。

とはいえ個人的には、下の名前で気軽に呼んでもらっても嬉しいですけどね（笑）

皆、同じ方向を向いて  
南無阿弥陀仏…。  
そっか、仲間なのね！



蓮ちゃん

## 養泉寺の場合(2021年3月現在)



・住職、御院主  
・下の名前：静秋（しずあき）



・副住職、御当院  
・下の名前：光弥（こうや）



## 寺族の声 - 編集後記 -

1月の大雪には閉口しましたね。寺泊も1メートル近く降り積もりました。坂になっている駐車場で、せっせと雪を掘って、道路につなげるのに難儀でした。雪国では“雪かき”なんて言いません。“雪掘り”といいますね。実家(長岡)辺りでは“雪ほげ”と言ってました。

昔は、コスキで豆腐のように切り、スツとすくって、ヒョイツと掘り上げる一、その見事なこと！

実家の父が亡くなって23回忌となるのですが、不思議なことに、父が雪ほげをしている姿がいろいろと浮かんできたのです。セーターの柄、タバコの匂い、休憩中のお茶の湯気まで。久しぶりの感覚でした。私は積もった雪の風情が大好きなんです。父を思い出すから…。

人間は2度死ぬんだそうです。1度は肉体の死、2度は遺った人の中の思い出が失せてしまう死。今回私は、私の中にまだ父が生きていた—！なんだかとても嬉しくなって、難儀な雪も楽しい雪と味わわせてもらえました。

春はもうすぐそこです。冬の間の疲れた体を、無理をせず、どうぞいたわってあげて下さいね。また笑顔でお会いできますことを楽しみにしています。

文章：坊守(倉井恭子)



左:本山の阿弥陀堂(手前)と御影堂(奥)。

下:新しくなったばかりの本山の同朋会館。



伝筆で、いろんな言葉、あなたも書いてみませんか？

様々なコースから、技法を学び、自分で楽しめるようになります。ご興味のある方は、3ページから若坊守に連絡を！

一緒に正信偈のおつとめ練習してみませんか？

当院がおつとめをお教えします。『正信偈』は御門徒の基本です。希望者が1名でもいれば、日時を合わせてお教えします。とにかくまずは連絡を！

### 第11組真宗講座 実施中!!

養泉寺からスタッフとして当院が、受講者として鷲澤潤さん、当銀静子さんの2名が参加しています。現在、コロナのため京都へ行けず中断中ですが…ともに浄土真宗の教えに学んでいます！

全ての連絡先、問合せ、疑問や質問、ご意見ご感想はこちらまで！！

電話 0258 - 75 - 2210  
ファックス 0258 - 75 - 2210  
ホームページ <https://yousenji-teradomari.jimdofree.com/>  
メール [yosenji1594@gmail.com](mailto:yosenji1594@gmail.com)  
郵便 〒 940 - 2502 新潟県長岡市寺泊一里塚 3883



養泉寺 LINE



養泉寺 kids LINE



TERADOMARIYOUSENJI  
養泉寺 Instagram

# 養泉寺 行事カレンダー（3月～9月）

春彼岸会・永代経法要 （お中日）	3月20日（土祝）
	<時間> 午前10時半～正午 <志目安> 千円 <備考> お齋なし、お供物あり
法話会	5月28日（金）
	<時間> 午後1時半～3時 <志目安> お賽銭 <備考> 茶話会あり（お時間のある方）
法話会	6月28日（月）
	<時間> 午後1時半～3時 <志目安> お賽銭 <備考> 茶話会あり（お時間のある方）
法話会	7月28日（水）
	<時間> 午後1時半～3時 <志目安> お賽銭 <備考> 茶話会あり（お時間のある方）
盆参、新盆会	8月1日（日） 8月8日（日）
	<時間> 午前10時半～正午 <志目安> 二千円 <備考> お齋あり（持ち帰り）
法話会	8月28日（土）
	<時間> 午後1時半～3時 <志目安> お賽銭 <備考> 茶話会あり（お時間のある方）
秋彼岸会・永代経法要 （お中日）	9月23日（木祝）
	<時間> 午前10時半～正午 <志目安> 千円 <備考> お齋なし、お供物あり

<発行> 養泉寺出版 2021年3月10日